

平成30年度学校自己評価システムシート (県立小鹿野高等学校)

N08

目指す学校像	総合学科高校として、生徒の「学力・人間力・思いやり・創造性」をはぐくむ、地域に愛され、期待に応える学校
--------	---

重点目標	1 基礎から発展まで確かな学力の育成 2 総合学科の特色を生かしたキャリア教育の充実と進路実現 3 規範意識の醸成と規律ある生活習慣の確立 4 生徒の人間力を高めるための地域連携と開かれた学校づくりの推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	9名
	事務局(教職員)	3名

年度		学校自己評価				年度評価(1月24日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】生徒の学力等が多様化する中、授業規律および学習環境は維持できている。教科毎、学年毎のさまざまな取組みは徐々に成果を挙げている。その上で、基礎学力向上のための授業改善は今後も必要である。</p> <p>【課題】 ・生徒の「わかる」「できる」を実現するため授業改善をさらに進めること。 ・さまざまな取組みを共有、体系化し、生徒にとってさらに有効な取組みとすること。</p>	学力及び学ぶ意欲の向上	①全校で取組む学習機会を深化させ、生徒個々の実態に即した学習指導を行う。(通年) ②少人数等での学び直しの授業実施によって学習意欲を向上させる。(通年) ③全校一斉の漢字・計算力・英語等のテスト、またその準備を通じて基礎学力を向上する。(通年) ④教員間の学び合いを一層深めるための授業相互見学期間を設ける。(1学期及び2学期) ⑤ICTを活用した学習ツールの提供を継続、指導方法を改善する。(通年) ⑥上級学校等への興味関心を高める。(1学期及び2学期)	①スキルアップトレーニングの満足度80%以上 ②少人数授業による授業の満足度85%以上 ③テストの実施年10回以上及び基礎学力が向上していると感じる生徒80%以上 ④授業相互見学期間2回実施と授業の工夫改善に対する満足度75%以上 ⑤受講者の満足度70%以上 ⑥見学会参加者の満足度75%以上	1 学習に取り組む姿勢や姿勢を、より育むことができた。 ①内容に満足している生徒は78%であるが、積極的に取り組んでいる生徒は85%以上となっている。 ②少人数での授業内容がよくわかる生徒は80%以上である。また、授業の工夫に満足している生徒も約80%となっている。 ③漢字テスト、英語テスト、計算力テスト計10回実施、基礎学力が向上したと感じる生徒は全体で概ね80%である。 ④授業相互見学期間2回実施、また研究授業を8回実施し、教員間の学び合いを深化した。授業の工夫改善に対する満足度は75%程度である。 ⑤1・2年生の受講者全員が次年度も受講したいと希望している。 ⑥参加したほとんどの生徒が満足をしていた。また、事前アンケートの実施や実施日の工夫、また、これまで以上に保護者への参加を積極的に呼びかけるなど、実施内容等の工夫改善を行った。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態を踏まえ、個々の生徒をより伸ばすための、授業改善をさらに進めること。また、このために、さまざまな研鑽の機会を創出し活用すること。 高校生のための学びの基礎診断でPDCAサイクルを循環させるための情報共有を組織的に進めること。
2	<p>【現状】進路実現は十分達成している。生徒の現状を踏まえた取組みが成果となっている。生徒のキャリアを育む意識が教職員間で醸成されている。</p> <p>【課題】 ・年次毎の取組みを学校全体として蓄積すること。 ・進路実現に向けた学力向上の取組みを充実させること。 ・時期学習指導要領に向けた生徒自身の振り返り活動を導入すること。</p>	キャリア教育の充実を通じた進路実現	①「産業社会と人間」の中で職業観を育成する。(通年) ②就労体験の振り返り活動をより実効性のある内容にする。(2学期以降) ③進路意識を高めるための体験活動及び資格取得を奨励する。(通年) ④マンデーレッスンの内容(漢字、数学、英語検定、スタディサプリ等)を充実する。(通年) ⑤次期学習指導要領を見据え、生徒自身の振り返り活動を実施する。(通年) ⑥進路指導体制を充実させる。(通年)	①アンケート等による生徒・保護者の満足度85%以上 ②1・2年次生の進路に対する意識向上 ③体験活動等の参加人数の増加及び資格取得の状況 ④参加生徒の満足度向上70%以上 ⑤振り返り活動の結果、自分の活動が把握できた生徒70%以上 ⑥JSTの活用状況及び面談等の実施回数	2 個々のキャリアを高められた。3年次生の進路決定状況は引き続き良好である。 ①就労体験が充実していた生徒は約90%である。また、挨拶、時間に対する意識が変わったと感じている保護者も90%以上である。 ②2年次生の85%が進路行事等を通して進路への意欲が高まった。 ③介護職員初任者研修を15名が修了した。また、漢字検定受検者等も増加し、生徒の意欲が徐々に高まっている傾向にある。 ④受講してよかったと感じた生徒は5講座全体で約60%である。 ⑤1年次生からの年次進行で振り返りの時間も設定した。多くの生徒が自分自身の活動を振り返ることができた。 ⑥1学期には3年次生全員面談、また2学期には2年次生全員面談を実施、それぞれの生徒及び時期に応じた働き掛けを行った。進路だより等の発行も行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路保障のため、キャリアを育み、興味・関心・適性・能力を伸ばすこと。 社会人として不可欠な基礎学力や文章力を、1年次から高める取組みを実施すること。 生徒の振り返り活動の方法等について、さらに研究を重ね、より効果的なものとなるよう実施すること。
3	<p>【現状】個々の状況に応じた指導を展開している。これらの指導が生徒の基本的な生活習慣に結びついている。また、清掃活動等を通じて、校内美化が行き届いている。</p> <p>【課題】 ・TPOに応じた態度をより身に付けること。 ・生徒指導体制をさらに充実させること。</p>	主体的に規律を守る態度、意識の育成	①全教職員による登校指導、校内巡回指導、整容指導を引き続き実施するとともに指導方法を改善する。(通年) ②チャイムTOチャイムとなる授業を実施する。(通年) ③校内美化を一層推進する。(通年) ④主体的に挨拶する態度を育む。(通年) ⑤スクールカウンセラー、巡回支援員等と引き続き連携し、教育相談体制を一層充実させる。(通年)	①各指導体制に対する保護者の理解と決まりを守る生徒の意識80%以上 ②時間を守る意識75%以上及び遅刻数の減少 ③校内美化の状況とこれに関わる意識の改善 ④自ら挨拶ができる生徒80%以上 ⑤生徒の悩みに対する対応の満足度75%以上	3 さまざまな改善のもと、生活指導、清掃指導等の働き掛けを通して、規律ある学校生活づくりが進んだ。 ①保護者の90%以上が生徒指導全般に対して理解をしている。基本的な生活習慣が身につけていると考える生徒は70%程度である。 ②遅刻者数が昨年度より増加した。意識の改善が必要である。 ③校内美化は充分に行われている。学習環境への満足度について、生徒は70%以上、保護者は90%以上である。 ④引き続き自ら挨拶することを奨励する。現状では挨拶できる生徒が少ないとの声も一部にあり、さらに改善が必要である。 ⑤生徒の70%以上、保護者の90%以上が教育相談体制について満足している。生徒にさらに寄り添った指導が必要である。	B	<ul style="list-style-type: none"> 制度改正等も踏まえ、生徒指導体制等の見直しを行い、特に生活習慣の定着の改善を図ること。 教育相談体制について、地域の人材を活用し、充実を図ること。 挨拶をする態度を育成するための働き掛け、指導体制の見直し等を行うこと。
4	<p>【現状】地域との交流等により生徒の「人間力」が十分にはぐくまれている。学校の様子は地域に理解されている。</p> <p>【課題】 ・地域及び中学生向けの広報手段等を一層充実させること。 ・地域と支え合う学校の在り方をさらに考えていくこと。 ・生徒の地域における諸活動をより活発にさせること。</p>	地域連携の深化と推進	①学校と地域双方の活性化のため、「コミュニティ・スクール導入事業」を活用する。(通年) ②より多くの生徒の地域行事等への参加を促進し、地域全体、また異世代間の交流を深化する。(通年) ③ボランティア活動等をおとして、多くの生徒の自己肯定感を育む。(通年) ④HPの積極的な更新、毎月の広報紙発行、全職員による中学校訪問を実施する。(通年)	①地域に根付いていると感じる地域住民80%以上 ②生徒の参加状況及び参加した生徒の満足度 ③ボランティア等の参加状況と参加者の満足度 ④積極的に情報発信をしていると感じる生徒、保護者、地域住民がそれぞれ75%以上	4 地域との連携は深化した。生徒が地域に積極的に外向くこと、また学校教育における地域資源の生かし方について、さらに協議を進めていく必要がある。 ①地域に根付いていると回答した地域住民は75%である。わからないと答えた12%に対してさらに働き掛けが必要である。 ②③社会福祉協議会ボランティア、ボランティアチャレンジプロジェクト等の参加者は若干減少、生徒への働き掛け等が課題である。なお、参加した生徒の満足度については非常に高い。 ④情報発信についての満足度は生徒70%以上、保護者90%以上、地域住民54%である。中学校訪問、HP更新、公開講座実施、広報紙発行等での情報発信を続けつつ、内容や方法の改善が必要である。	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域との連携を継続し、双方にとってWIN-WINの関係となるよう一層の改善を図ること。 情報が特に地域に届くよう、情報発信の方法、手段について工夫改善を図ること。 地域貢献活動について、生徒の参加意欲を喚起すること。

学校関係者評価	
実施日	平成31年2月5日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> スキルアップトレーニングの取組みは大変に良い。学び方を知っていることは社会に出てから、とても大切である。 アンケートにおける少数意見にも耳を傾け改善を進めて欲しい。 個々の成長を大切に、生徒を育てて欲しい。 授業等での満足度が高い。教職員の面倒見の良さがよくわかる。 目的意識をもって何事も取り組むことが必要である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 内定状況を一層改善して欲しい。 地元(小鹿野町内)での就労について、一層の啓発が必要である。 福祉や介護に携わる人材を育てて欲しい。また専門学校や大学で学んだ後、地元での活躍を願う。 日々の積み重ねは大切である。3年間で成長している様子が十分にわかる。 生徒、保護者は進路指導に何を望んでいるか把握する必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻が多い事は気がかりであるが、生徒への指導は難しい。生徒の心がけ次第という面もある。 挨拶をする生徒は増えているのではないだろうか。しっかりと挨拶をできる生徒は多いと感じる。 生徒を支える体制は大規模校に勝る。小規模校のメリットを最大限生かして欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 地域でのさまざまな取組みに高校生が関わることは地域の活性化に繋がる。 多様な経験はリーダーシップを育む。経験を積んだ生徒は、地元にとって貴重な存在である。 地域課題を解決する取組みは素晴らしい。高い志と地域への広がりには学校の存在感を示した。 	